

学校関係者評価・自己評価

1. 教育理念 建学の精神に従い、カトリックの精神に基づいた幼児教育を行う
教育目標 キリスト教精神に基づく喜びのある教育
元気に遊べる子
礼儀正しく素直な子
よく見よく聞く子
2. 重点目標
 - ・園児の主体性を大切にし、保育者はそれが育つように、活動を計画し、取り組みにも注意を払う。
 - ・体操・リトミックを取り入れることにより、体を思いっきり動かす体力のある子、いつでもはつらつとした子どもの育成を目指す。
 - ・英会話を習うことにより、異文化を知り、将来国際人として視野が広い人間になる基礎作りを行う。
3. 評価目標
 - ・子どもの主体性を育てる保育ができたか

4. 【2025 度重点的に取り組んだこと】

子ども達が主体的に活動できるように、保育者は言葉がけや環境づくりに努めていくようにしました。特に年長ではできるだけ子どもたちが話し合いを行い、自分たちで考え、行事を進めていくように努めました。

結果：運動会で行う競技、競技の説明文作成、並びにその発表を子どもたちが考えて行いました。また、クラス対抗リレーでは自分たちが勝つにはどういう順番で走ったらよいかをクラス内で話し合って決めました。

子ども達は話し合いにも慣れて、特定の子のみが意見を言うのではなく、それぞれが自分の考えを言って、友達の意見にも耳を傾けより良い方法を編み出すまでになったようです。

数年前に園の行事から外した「音楽会」は、クラスで音楽遊びをするところから好きな曲の合奏をしたいという子どもたちの声で練習をはじめ、結果保護者に見ていただく発表をすることができました。

また、年長は段ボールを使ってお店屋さんを作り、年中、年少に招待状を出して遊んでもらうことをしましたが、これも教師主体ではなく子どもたちの声からの催しでした。主体性を大切にする取り組みに保育者も慣れていったように思います。

毎週火曜日に総合体育の指導員から体操を習い、子ども達は元気に運動に取り組み、もともと活発な子どもは更に運動神経が育ち、運動が苦手な子どもも運動に対する苦手意識が薄らいでいます。

水曜日にネイティブスピーカーと日本人のペアで英語を習っていることにより、英語の歌を楽しみながら歌い、異文化を知るきっかけにもなっていました。また、ネイティブス

ピーカーの先生も積極的に英語で話しかける子どもが増えています。

木曜日のリトミックでは音の高低を聞き分けて、体を動かすことができるようになっていきます。また、いろいろなリズムを体で感じ指示に従って体で表現することができるようになっていきます。

体操、英語、リトミックを指導していただき幼稚園の活動に幅ができました。

5. 今後の課題

- ・ここ数年子どもの主体性を大切にする保育に取り組んでいますが、職員も慣れてきました。今年度も更に環境設定、言葉がけの方法を磨き小学校入学前の10の姿に近づくよう保育に当たりたいと思います。
- ・体操、英語、リトミックは引き続き同じところから講師を派遣してもらっているので、更に園児のスキルアップにつなげたいと思っています。

6. 学校関係者委員からの講評

2025年度のサンタセシリア幼稚園の教育活動は、総じて教育目標をふまえ、「遊びを重視し、子ども一人ひとりに寄り添いながら、教師主導ではなく、子どもの主体性を尊重する保育」の実現を目指して松浦園長先生をはじめ全員の先生方の理解、連携そして協働による成果が表れた内容であると評価できる。

松浦園長をはじめ諸先生方の熱意とご努力に感謝いたします。

その上で寄せられた資料へのコメント付すことにします。

*保育全体について（要望）

保護者の「クラス編成への考慮」が高いことの背景や、行事等スケジュールの早めの提示要望に留意することがよい。

*外遊びについて（要望）

外遊び重視への支持が示されている。

*行事について（要望）

祖父母参加の環境を整えて欲しいという点に留意することがよい。

*その他の意見

全体的には、諸先生方が「愛情いっぱい子どもたちに接していただき感謝しています」とのトーンに貫かれている。

「自己評価」

全体的に見て、今年度目指していた「子ども主体の保育」への諸先生方の多様な取り組みがなされた成果が示されている。個性豊かな子どもたちへの、個別最適な保育・教育の背景が見て取れる。以上

東京保育専門学校校長 榎本勝己

サンタ・セシリア幼稚園 幼稚園評価

* 幼稚園の教育目標や子ども主体の保育は職員の皆様の努力の積み重ねで保護者から園への評価は本当に高く評価されていると思います。

細かな要望がそれぞれにありましたが検討して直ぐに改善できる事もあるように思います。また、難しい要望もあると思いますが、皆様で検討を重ね少しでも要望に沿える方向を考えていくことも、必要になってきていると思いました。

職員の皆様も保育の中で新しいことを取り入れ、子ども主体の保育を考えていらっしゃる様子もありこれからも日々の保育を大切に過ごしてほしいです。

幼稚園担当理事 相馬 たゑ子

2025年度の保護者アンケートおよび教職員自己評価から、園が子ども一人ひとりに寄り添い、「子ども主体の保育」を大切に実践されている様子がうかがえます。子どもの主体性や自己肯定感を育む関わりが積み重ねられており、多くの保護者からも温かい保育への感謝の声が寄せられています。安心して園生活を送ることができる環境が整えられているものと評価できます。

一方で、保育時間や預かり保育の運用については、家庭状況の多様化を踏まえた柔軟な対応が課題として挙げられています。あわせて、外遊びの充実や行事運営、情報共有のあり方についても見直しを求める意見が見られており、今後の工夫が期待されます。

人的体制や園内の連携については評価の声がある一方で、情報共有や対応の一貫性の向上を望む意見も寄せられています。保護者との信頼関係をさらに深めるための体制づくりが進められていくことが期待されます。

また、挨拶や基本的な生活習慣、宗教的な学びについても継続的な充実が望まれています。加えて、園の魅力発信や環境整備に関する取り組みが進められることで、今後の安定的な運営につながるものと考えられます。

総じて、本園の温かい人的環境と子ども主体の保育という強みを基盤に、保護者の声を踏まえた改善が進められることで、より一層魅力ある園づくりが実現されていくものと考えられます。

聖心学園幼稚園 園長 柴崎公子